

CAE (Console Application Executor) Ver2.00

【概要】

Windows上でコンソールアプリケーションを実行し、標準出力を画面に表示します。
設定ファイルを、どうやこうやして、コマンドやパラメータを追加することができます。

普段、弄らないコンソールアプリを久々に弄ったときに、
コマンドやパラメータを忘れていたり、コマンドを打つのが面倒だったりで、「あー」ってなるので
備忘録&GUIによる簡易実行ができればと思い、開発に至りました。

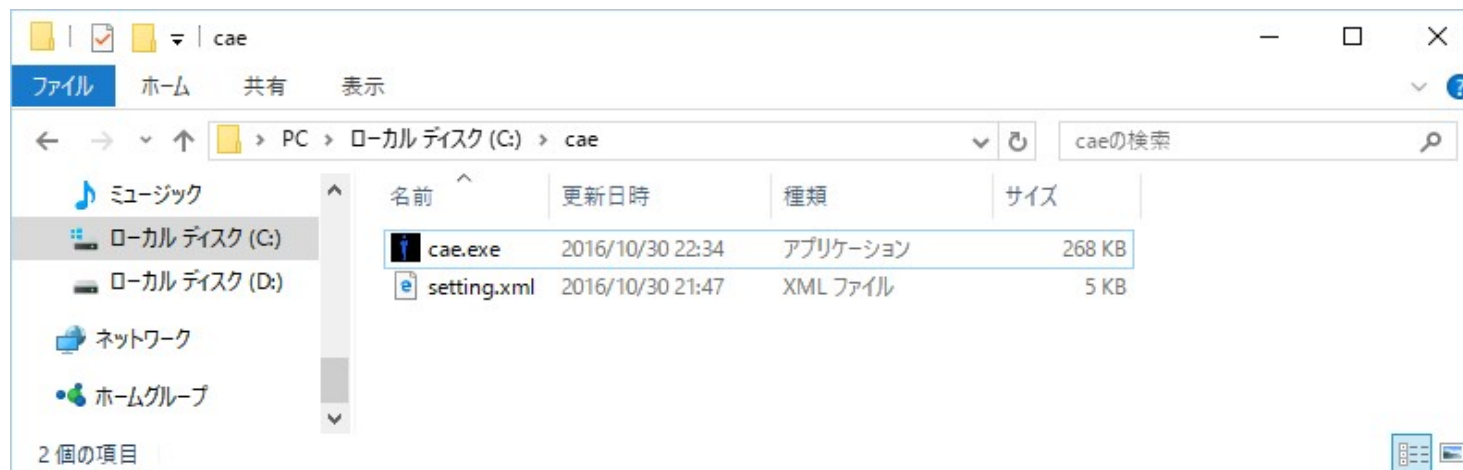
未実装部は多々ありますが、なんとなく動くのでひとまず公開です。

【使用上の注意】

- ・ 現在のバージョンでは、対話形式（起動後に入力を求められるアプリ）には対応しておりません。
そんなことをすると、アプリが固まってしまうので、強制終了です。(T T)
(おいおい、対応したいです)
- ・ よくある話ですが、**完全無保証**です。

【使用方法】

1. インストール



解凍したファイルを適当なフォルダーに配置してください。

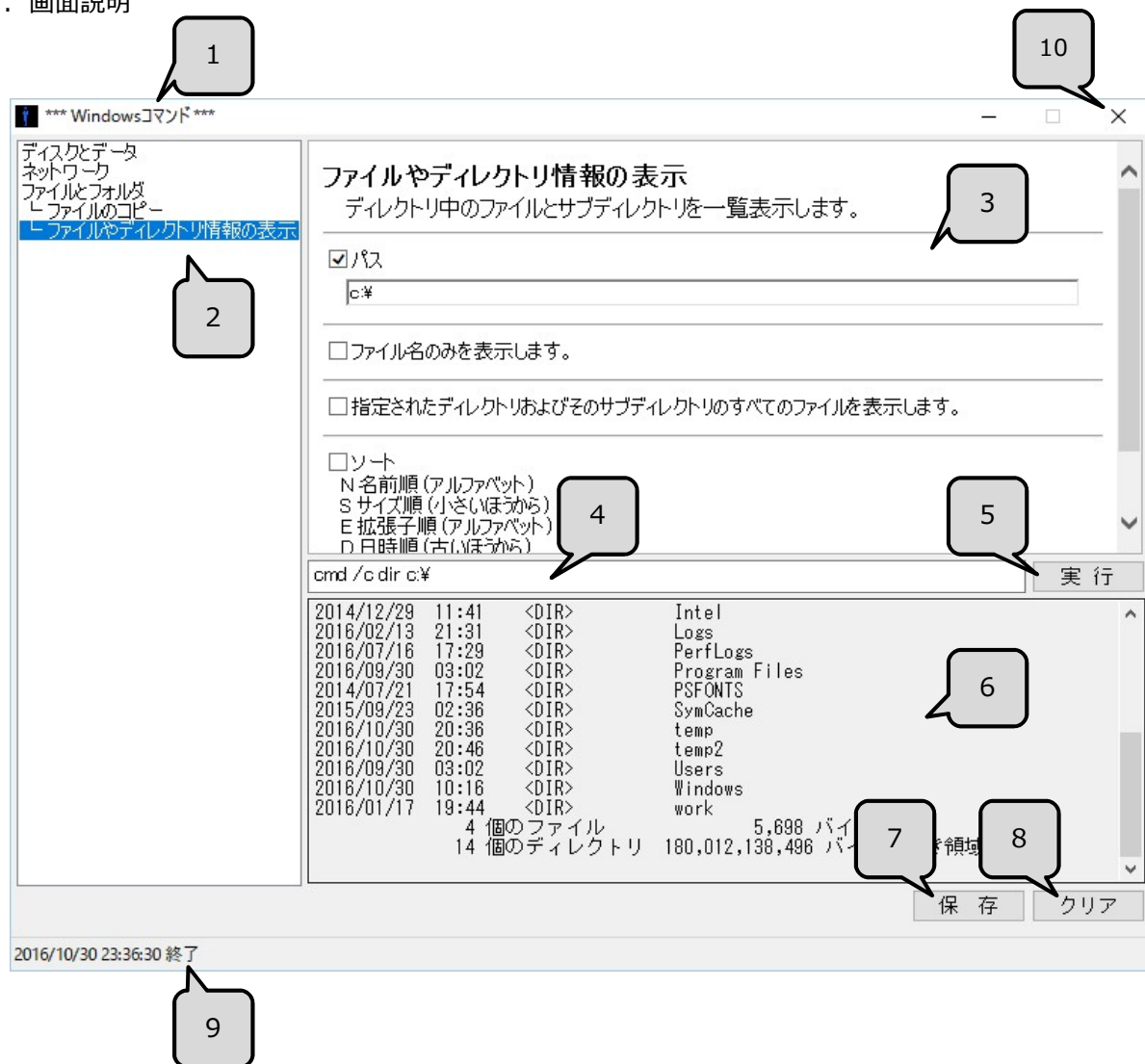
cae.exe : アプリケーション本体です。

setting.xml : 設定ファイルです。アプリケーション本体と同一のフォルダーに配置してください。

2. 起動

cae.exeをダブルクリックするなりで画面が表示されます。

3. 画面説明



1 : タイトルです。

2 : コマンドのタイトル一覧です。

3 : パラメータ設定部です。
画面左のリストで選択したコマンドに対応した
パラメータ設定が表示されます。

4 : 選択したコマンドおよび、パラメータの指定に応じ、
コマンドが表示されます。編集可能です。

5 : 押下すると、
表示されているコマンドを実行します。
実行中に押下すると、
確認後、実行しているプロセスを強制終了します。

6 : 標準出力が表示されます。

7 : 表示されているテキストを、保存先を指定したのち
保存します。

8 : 表示されているテキストをクリアします。

9 : 実行中だったり、終了した時点の時間だったり
が表示されます。

10 : アプリケーションを終了します。
[Esc]押下でも終了します。

4. 利用の流れ

事前に、設定ファイルにコマンドを仕込んでおく

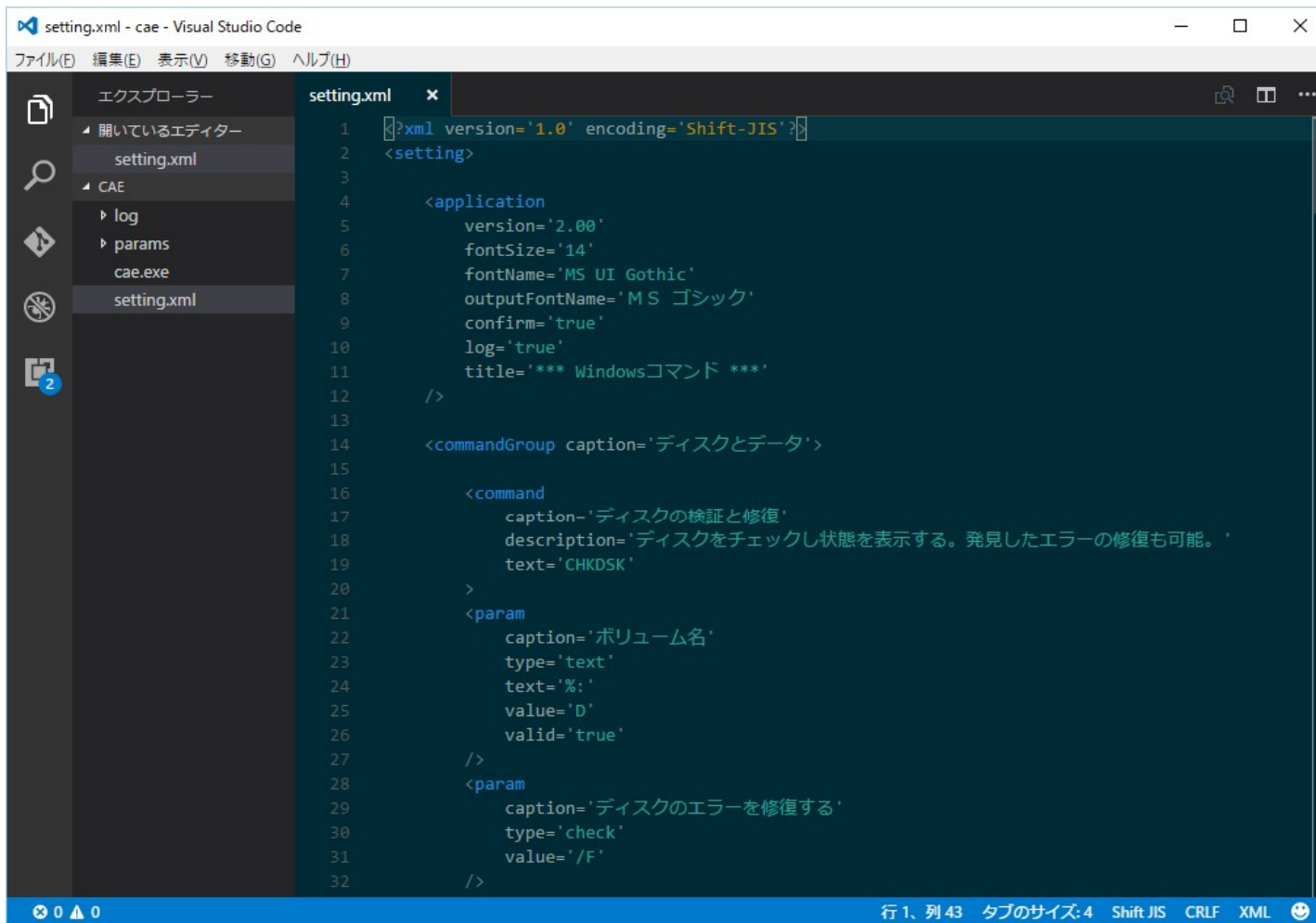
→ 起動 → コマンドを選ぶ → パラメータを設定する → 必要に応じコマンドの編集を行う → 実行 です（大雑把）

5. アンインストール

フォルダごと、ごみ箱へ

レジストリは利用しておりません。

【設定ファイル】



```
1 <?xml version='1.0' encoding='Shift-JIS'?>
2 <setting>
3
4   <application
5     version='2.00'
6     fontSize='14'
7     fontName='MS UI Gothic'
8     outputFontName='MS ゴシック'
9     confirm='true'
10    log='true'
11    title='*** Windowsコマンド ***'
12  />
13
14  <commandGroup caption='ディスクとデータ'>
15
16    <command
17      caption='ディスクの検証と修復'
18      description='ディスクをチェックし状態を表示する。発見したエラーの修復も可能。'
19      text='CHKDSK'
20    >
21      <param
22        caption='ボリューム名'
23        type='text'
24        text='%:'
25        value='D'
26        valid='true'
27      />
28      <param
29        caption='ディスクのエラーを修復する'
30        type='check'
31        value='/F'
32      />
20
```

エンコードはShift-Jis なので、保存時は注意

構成は

<application>

<command>

<param>

...

<command>

...

<commandgroup>

<command>

<command>

...

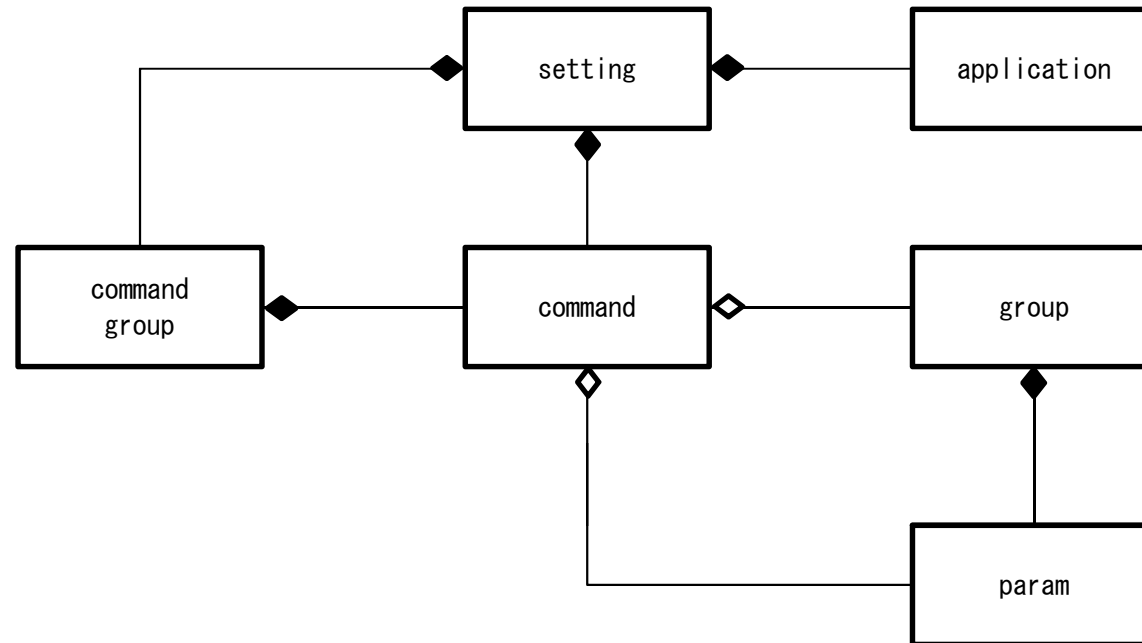
<command>

<group>

<param>

<param>

...



こんなかんじ

1. application

アプリケーション全体の設定

設定例と説明

```
version=' 2.00'  
fontSize=' 14'  
fontName=' MS UI Gothic'  
outputFontName=' M S ゴシック'  
confirm=' true'  
log=' true'  
title=' *** Windows コマンド ***'
```

バージョン
基本フォントサイズ
フォントの種類
標準出力のフォントの種類
実行前に確認を行うか否か 後述の<command>で設定がない場合に適用
ログを出力するか否か
画面のタイトル

2. command

コマンド定義

<setting>または、<commandGroup>の子要素。
<param>または、<group>を子要素に持つ。

設定例と説明

```
caption=' IPネットワーク接続の確認'  
  
description=' IPネットワーク接続の確認を行います。'  
text=' PING'  
confirm=' false'
```

コマンドの表題 画面左のリストに表示されたり、パラメータ設定部の一番上に太字で表示される。
コマンドの説明 コマンドの表題の下に表示される。
コマンドテキスト 実行されるコマンド。
実行時に確認するか否か
設定が存在しない場合は、直近の「設定が存在する親要素」の設定が適用される。

3. param

コマンドのパラメータ

<command>または<group>の子要素。

<param>の子要素は存在しない。

設定例と説明

caption=' AAAを行う '

type=' text '

text=' ececA="% "'

value=' defValue '

enabled=' true '

valid=' true '

パラメータの説明。

パラメータのタイプ (text|check) 。

後述の<group>の子要素である場合は、設定不要。

パラメータのテキスト %を設定することで、後述のvalueの値が%の位置に設定される。

(type=text のみ)

パラメータの可変値 "type=text"の場合、パラメータテキストの%の文字と置き変わり、
コマンドのパラメータとなる。

"type=check" の場合、設定値がそのままコマンドのパラメータとなる。

画面上で、変更可能か否か。

初期表示時、パラメータが有効か否か。

4. group

グルーピング要素のコマンドのパラメータ
<command>の子要素。
<param>を子要素に持つ。

設定例と説明

```
caption=' 血液型'  
type=' radio'  
text=' /blood=%
```

```
enabled=' true'  
valid=' true'
```

パラメータの説明。
パラメータのタイプ (check|radio|select) 。
パラメータのテキスト %を設定することで、子要素で選択されているvalueの値が
%の位置に設定される。
画面上で、変更可能か否か。
初期表示時、パラメータが有効（選択されている）か否か。

5. commandGroup

コマンドグループ定義 コマンドやコマンドグループを格納するフォルダーの様な存在
<setting>または、<commandGroup>の子要素。
<command>または、<commandGroup>を子要素に持つことができる。

設定例と説明

```
caption=' ディスクとデータ'  
confirm=' false'
```

パラメータグループの説明。
実行時に確認するか否か
設定が存在しない場合は、直近の「設定が存在する親要素」の設定が適用される。

【開発環境】

Windows10（32bit） / HSP3.4 build

【終わりに】

いろいろ雑なところ、まぬけなところがありますが、ひとまず動くものができたので、良しとしておこう。（自己満足）

何かの間違いで、ご要望があればこちらまで

mail : hoihoi_work24@yahoo.co.jp

ほい 迄

最新の情報はこちら

http://www.geocities.jp/hoihoi_work24/index.html

また、HSP開発陣の皆様、有難うございます。

良い、暇つぶしになりました。